

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
平成 25 年度第 1 回 薬学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時 平成 25 年 12 月 26 日 (木) 12 時 30 分～15 時 00 分

場所 近畿大学 (東大阪キャンパス) 薬学部棟 (39 号館) 1 階会議室

II. 出席者 松山委員長、黒澤副委員長、大嶋委員、齊藤委員、大谷委員、徳山委員、  
松野委員 (議事録) (事務局 井端、森下)

III. 検討事項

今回は薬学分野の教育改善モデルへの意見を踏まえてモデルの見直しを行った他、教育改善モデルの実現に向けた課題について、以下の通り検討した。

1. 教育改善モデルの提言に対するサイバーFD研究員の意見について

昨年度に作成した薬学分野における教育改善モデルについて、平成 25 年 7 月と 9 月に Web およびメールによって各教員へアンケートを実施したところ、対象者 710 名のうち 8 名から意見が寄せられた。

アンケートでは、教員個々の問題や大学の教育環境の問題を背景に、モデル実現に対して否定的な意見が見受けられたが、特にモデルを見直すべき意見はなく、本モデルは各大学において教育改善の参考としていただく位置づけであることを確認し、本委員会としても修正すべき点はないとしてモデルの修正は行わないことになった。

2. 教育改善モデルの実現に向けた課題について

今後の本委員会の研究を進めるにあたっての方針について意見交換を行い、薬学教育における現状の問題を踏まえながら、以下の意見がまずあげられた。

- ・ 質保証の検討にはこれまで各々が作成し自賛している状況
- ・ 知識偏重型からの脱却を図り知識を活用する教育への実現
- ・ アクティブラーニングへの取り組みが重要であるが、受講人数の問題がある
- ・ 本協会ですべてに作成したコンテンツを世界に発信する方法

さらに、改善モデルを実行に移すためには、「他職種連携」の壁を取り払う必要があること、そのためには定期的なワークショップを開催することが本委員会の次のステップであることを共通の認識とした。具体的には以下のような内容を確認した。

① 実務家教員への情報提供

実務家教員は、医療現場の実際を学生に伝えることが職務であるが、一般の教員と比較して、(1)学生指導に対する経験が少ない、(2)現場から離れてしまった場合に最新の医療情報を入手できない可能性がある、などの問題を抱えている。そこで、本協会から最新の教育スキルや医療情報などのコンテンツを配信することで、FD/ICT 教育を充実させる必要があるのではないかとの意見があった。実際に、北海道薬科大学では、実務家教員は講義・実習のない日は医療現場で業務を行い、常に「実務家」としてのスキルを磨いている。

さらに、今後の6年制薬学教育の発展を考えた場合、医療現場の情報を創薬研究にフィードバックすることも重要な役割ではないかとの意見もあった。

#### ② 他学部・他職種連携ワークショップについて

北海道医療大学、慶應義塾大学、近畿大学などでの分野（職種）横断ワークショップの実際について報告され、低学年からこのようなワークショップで行うことで、お互いの職種にける思考や立場が理解できれば、卒業後の他職種連携をスムーズに行えるとのことであった。ただ、このような連携ワークショップを行える大学は限られており、医療系学部のない大学には本協会コンテンツ配信などを行い、連携に対するチャンスを提供する必要性も意見として出された。

### 3. その他

本年度新たに参画された委員より、今回の提言のような非常に有意義な内容があるにもかかわらず、協会からのPRが不足しているために情報が伝わっていないとのコメントがあった。本件に関しては、事務局から積極的な配信を行うとの回答を得た。

### 4. 今後のスケジュールと課題

次回の委員会は2月19日（水）13：30より本協会事務局にて開催し、論点を整理した後に、26年度の最後にモデルを具体化するためのワークショップを開催することとなった。

なお、今回の意見をもとに、研究集会の具体的な内容を考えておくことを課題とし、討論を円滑に進めるため、メーリングリストでも議論も行うことにした。

以上